

令和4年度第1回狭山市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

開催日時 令和4年7月29日 午前10時30分～正午
開催場所 狭山市役所6階 602会議室
出席者 6名
欠席者 4名
市側出席者 企画財政部長、企画財政部次長、企画課長、総合戦略推進担当課長、子育て支援拠点整備担当課長

議題等

1. 狭山市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
2. 地方創生推進交付金を活用した事業について
学校跡地を活用した入曽地区地域交流拠点整備事業

《質疑・意見》

(1) 狭山市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

委員 令和3年の11・12月に社会動態が大きく増加している理由は。

市側 狭山工業団地の拡張地区で新たな企業の操業が始まるということで、県外より单身の方が多く転入されているという話は伺っている。新たに1,000人規模の雇用が創出された影響があるのではないかと捉えている。

委員 工業団地の近くで商売をやっているため、会社関係の方が増えているのは実感している。

委員 自然動態、社会動態の地区別ではどうなっているのか。
柏原地区では少子高齢化の影響で小学校のクラスが減っている。若い世代が減ったのか、それとも地区外へ出てしまい地域に高齢者が残っているのか。

市側 人口全体では、対前年比だと奥富地区・入曽地区で若干増えているが全体的には減少傾向である。平成29年度と比較すると奥富地区の上奥富で増えているがそれ以外は減少している。

市側 転入者は入間川地区が多くなっており、調整区域に近い地域では減少が著しい。奥富地区については、新しい施設や住居がない分移動が少ないことから減少も少ないと考えられる。

委員 柏原地区にも手つかずであった場所に新たな家が立ち、オシャレな場所が増えている。幹線道路近くのインフラが整っている場所に関し

ては新しい住宅や若い人たちが増えており、所得も高そうだと感じる。

委員 社会動態は企業の誘致・撤退に左右されることは顕著である。企業については、行政ではどうにもならない点が多いため、企業の誘致に頼らず、転入促進・転出抑制を行っていく必要がある。

特に、入間川にここテラスはロケーションもよく、写真映えもするのでそういった場所を市内に増やすことが、若い人たち向けの情報発信としてよいと思う。

数字の増減にとらわれすぎず、企業の誘致による増減と生活者目線での魅力あるまちづくりといったアピールは別として考えていった方がよいと思う。

市側 移住・定住の促進以外にも「関係人口」という定住はしないが狭山市に何度も来るような方を増やす取り組みとして、入間川にここテラスや智光山公園のキャンプ場、その他イベントなどを SNS を通じて若い世代へ発信している。智光山公園では、キャンプ場を3月にリニューアルオープンし、WI-FI 環境を整えてリモートでの仕事やテレワークができるような環境を整えている。

今後も市の魅力をアピールして、何度も足を運んでいただけるようなリピーターを増やし、将来的に住んでいただけたらと考えている。

委員 狭山市では上下水道等のインフラが日本トップレベルという話を聞いている。日本でトップということは世界でもトップレベルということだと思う。他市のインフラが老朽化しているのを見ると、華やかな魅力もよいが、住む上でのベースとなっている部分をアピールしてほしい。これからも老朽化した部分については早めに対応し、災害に備えることが重要である。

委員 高齢者が住みたいと思うのは安心して住める場所であると思う。地味なところではあるがしっかりとやることが大切である。年齢によって求めるものは違うのでバランスよく行っていくことが必要である。

(2) 地方創生推進交付金を活用した事業について
学校跡地を活用した入曽地区地域交流拠点整備事業

委員 今回の事業では無電柱化は行うのか。

市側 本事業での無電柱化は行わない。

委員 入曽地区に住んでいる方はこの施設に集まるのではないかと思う。
忘れがちな子育てのターゲットは中学生、高校生といった自力で動ける人であると感じる。学習コーナーのようなブースがあると学校帰りに違う地区の子も一緒に利用できる。他の地区の子供も入れるという視点を取り入れるとよいと思う。

市側 子育て施設という名称であるが、児童としてとらえた場合、18歳までが対象となる。

中高生も呼び込むような仕掛けについては、公共広場の近くにバスケットコートを用意している。また、学習室については、中高生も自由に来ていただけるような形で設置を検討しているところである。

委員 隣の入曽地域交流センターにもフリースペースを設置してあるので、こちらも活用していければよいと思う。

市側 中高生を児童館に呼び寄せるのはどうなのかという問題がある。本来、児童は18歳までであるが、児童館に中高生を呼び込んでも来ない。
中高生を呼び込むために名称を見直す必要があるのではないかといい話もある。

市側 入曽地域交流センターのフリースペースについては、中高生が勉強するための学習するスペースとして、夜遅くまで利用されているので、上手に子育て支援拠点と連携していければと考えている。

委員 名称は重要だと思うので検討してもらいたい。

市側 名称については、今後も検討していく。
中高生も利用していただけるような名称や施設の使い方については、意見を参考に市内全体から愛されるような施設を作っていきたいと考えている。

委員 狭山市駅前の市民交流センターのカフェのように、施設内にテナント等に入ってもらえることは可能か。テナントがあると子供の親や中高生が寄ってきてくれると思う。世代のどこをターゲットにするのか。中高生が来過ぎると小さい子が来なくなったりという、バランスがある

と思う。何か寄っていききっかけがあればよいと思う。

市側 施設を民間が所有し、それを市が借りるということで、収益施設を含めて募集をしたが、採算が取れないということで収益施設は入れられなかった。

入曽地域交流センターにカフェが入っているので、日中、自由に行き来できるような形で利用してもらえるよう考えていく。

市側 様々な工夫をして市がやるべきなのかと思われる部分までやらないとクローズアップされないところもある。人が集まるための要素は、多少偏った取り組みこそ人が集まると思うので、取り組んでいくべきであると考えている。

市側 飲み物の自動販売機の設置は予定している。

小さい子と中高生では、利用する時間帯がずれていることもあり、日中は子育て世帯、夕方以降は中高生といった形で上手に住み分けできればよいと考えている。北側は公園でなく広場という形になるので、場合によって様々なイベントでキッチンカーや地域のイベントで活用していければと考えている。

委員 賑わうようなスペースを考えていただければと思う。

委員 水野の児童館を集約するという計画で進めていたとのことであり、元々児童館を利用していた方はこちらの施設を利用させていただくということであると思う。そこへ行くまでの動線については、交通量が多く、歩道は狭いという状況であり、道路事情がよくない。集約するのはよいがそこへ行くまでの道が安全である必要があると思う。

市側 施設の周辺道路の整備計画はあるが、元の児童館とを結ぶ道路の整備計画は現時点ではない状態である。今まで児童館やプレイスを利用していた親子には、児童館が移転した後、建物がなくなる事がないという中では、出張のプレイスや遊び場として活用していくことを計画している。

市側 水野児童館を壊してしまうわけではないので、引き続き、その場所はスペースとして、使える環境は残っている。移動が難しいお子さんには、その場所を使っただくことも可能である。

委員 地方創生の中で民間の活用というお話があったが、私のところに割とメジャーな良い技術を持っている企業が相談に来る。新事業を立ち上げようと考えている企業もある。もし市役所に個々の企業がタイアップしたいという企画があれば相談してもよいのか。

市側 そういった相談を受けるのが地方創生の総合戦略担当の仕事であると考えている。民間事業者の状況ややっていただけそうなこと等の情報をお寄せいただきたい。

委員 入曽地区では子育てスペースが完成し、若い人たちのネットワークで入曽に施設ができたという話がすぐに広まる。そうなると地域の中で、私たちの地域はどうなっているのかという話が出てくる。

市側 どうしても駅周辺から手を出している状況はある。どの部署でも柏原地区や水富地区を何とかしていかなくてはという認識はある。

 全市的な取り組みの中で、施設の集約を進めている。ある程度、スクラップ&ビルドを行っていく必要があり、それに伴い床全体を減らしていくという考え方が、我々のマネジメント上欠かせないところである。そこを地域の皆さんにご理解いただくという作業が何年もかかる。新しいものを作るのは我々も一緒に考えられるため、すぐに始められるが、それと合わせて今ある、どの施設を無くして、新しい場所へ持ってくるかを、今の時代として考えなくてはならない。そこで、折り合いがつかなくてなかなか進まないところである。

 例えば、柏原地区であれば公民館や保育所等は老朽化が進んでいるが、柏原地区の北側に用地がある。そういった場所を地域の皆さんが集まった際に、地区センター長を交えて、公共施設のありようについて、話し合いをしていただきたい。皆さんのお力を借りないと我々だけでは立ち行かない状況もあるため、皆さんと一緒に色々な話をさせていただきながら作り上げていかなくてはならないと思っている。

委員 入曽は劇的に変わると思うが、柏原地区や水富地区は置いてけぼり感を感じると思う。予算があるので後回しにはなるかもしれないが、忘れないで言い続けていく。狭山市はどこに住んでも、いいところであるということを発信できればよいと思う。